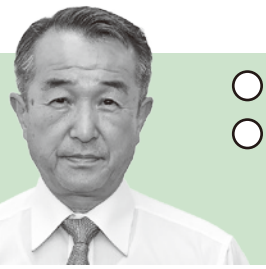
代表質問　議：議員／理：理事者



安岡孝一 議員
新風会・公明代表

○令和５年度当初予算について
○帯状疱疹ワクチンの助成について

その他の質問
・人と動物の共生するまちづくりについて

議 令和５年度当初予算について、物価高や燃料高騰に対する市民生活を守る対策や、豪雨被害の復旧対策を優先した予算になっていると思うが、市長の市政運営の基本姿勢と施策について伺う。

理 令和５年度は、アフターコロナ、大雨災害からの復興を見据え、今後のこども政策の充実に向けスタートを切る大事な１年になる。また、夏の県立恐竜博物館リニューアルオープンや県立大学恐竜学部（仮称）勝山キャンパス開校など大型プロジェクトが次々と控え、このチャンスを逃さぬよう新たな勝山市の実現へ多方面にわたり積極的な投資を行う編成とした。

市単独の緊急経済対策として電気料高騰対策支援交付金の交付や防災対策の推進、こども政策の充実、令和９年４月の新統合中学校開校に向けた準備を進めていく。

４月に知事選挙が執行される関係で、福井県の令和５年度当初予算は一部骨格予算となっており、県の補正予算のタイミングに合わせ、勝山市ゼロカーボンシティ２０５０ロードマップに沿った事業等の予算をお願いし、施策の展開を図っていきたい。

議 帯状疱疹は50歳から80歳までに約３人に１人が発症するといわれる。帯状疱疹を予防するにはワクチン接種が有効だが、費用が高額なため接種を控える方が少なくない。

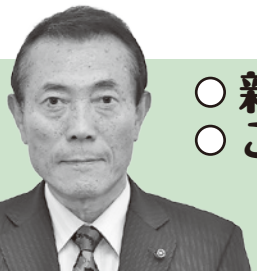
帯状疱疹ワクチンの助成を実施してはどうか。

理 帯状疱疹ワクチンは、予防接種法に位置づけられた定期予防接種ではなく、任意接種であるために費用が全額自己負担で、不活化ワクチンは、２回で４～５万円と高額となる。

令和５年度から県内で初めて帯状疱疹予防接種費用助成金事業を実施するため、当初予算に計上している。

予防接種に要する費用の一部を助成することで、経済的負担を軽減し、帯状疱疹の発症や重症化予防を図る。

代表質問　議：議員／理：理事者



丸山忠男 議員
市政会代表

○新年度予算について
○こども政策について

その他の質問
・高齢者の集える部屋の設置について　・勝山市の観光に対する取り組みについて
・農業に対する取り組みについて

議 勝山市の令和５年度当初予算の一般会計は、前年度比２８００万円、0.2％減の１１９億円で、平成27年の過去最大であった当初予算の１３１億１０２７万５０００円にはるかに及ばないが、ほぼ前年並みとなった。

市長は、限られた予算の中で今後の新しい勝山の展望を開いていきたいと述べているが、次の３点について担当課の見解を伺う。

①市税見込み
②市債償還予定と財源措置
③財政調整基金のあり方

理 ①個人住民税、法人市民税ともコロナ禍前の水準に回復してきていると判断する。

②市債の借入れは、財政措置のある市債以外は借り入れない方針で、令和５年度末の一般会計市債残高１１９億２５９万１０００円のうち、66・9％が後年度、普通交付税で財政措置される。この割合は、年々増加傾向で、健全な財政運営ができていると考えている。

③財政調整基金残高の基準は、国の指導等の中で経験則上、標準財政規模の10％程度が望ましいと言われている。

令和５年度末の財政調整基金残高は14億４５８３万３０００円の見込みで、その金額は、標準財政規模の20・4％となる。

議 市長は、教育会館を「こども会館」とし、子育て支援機能を加え中央公園の屋外遊技場を屋内遊技場と一体的に整備し、わくわくするような施設を目指すと述べている。

これからの子供たちに託す市長の考えを聞かせてほしい。

理 かねてから子育てしやすい環境づくりを念頭に、各施策に取り組んできたが、これら子育て支援策が少子化に効果があったとは言えないのが現実である。

若者の雇用問題や働き方改革、家事育児に対する男女負担の見直しなど様々な分野で多角的な取り組みが重要。

結婚や出産、子育てのあらゆる場面で、きめ細かな支援や経済的負担の軽減などを行い、若い世代が勝山市で子供を産み育てたいと思えるよう、また、生まれ育つ子供たちが一人でも増えるよう、取り組んでいく。